

- 1 演題 「情報化社会におけるネグレクト現象化～なぜ子どもたちは正しく情報端末を使えないのか～」
NPO法人ネットポリス鹿児島 理事長 戸高 成人
- 2 まとめ
- ① 本年度の4月に起きた伊集院での女子高2年生の列車飛び込み自殺(?)
発狂しながら列車に飛び込んだらしい→運転手はまだ仕事できない。
見ていた乗客も多かった
なぜ自分から死を選んだのか?
本県でも10代・20代の自殺が増加している。
 - ② 企業は「学歴」重視ではなく、「情報管理能力」重視で学生を新規採用している。
内定書をインターネットにアップした学生は情報管理能力がないということで、内定を取り消されたという事例もある。
 - ③ 県のインターネット接続機器所持率の小学生も年々増加してきている。
また、家族共用(1台のパソコンを親子で一緒に使う)は年々減少してきている。
一人一台の時代となり、「3年後には共用は0になる。」
 - ④ 中学生は「LINE」、高校生は「Twitter」を通じて知り合う。
 - ⑤ 男子…ネットで楽しむ。自分のアピールはしない。ゲーム等→「高額請求」
女子…コミュニケーションに気を遣いつつ、「リア充」をアピール
→書き込みからの個人情報漏洩、出会い系被害等
 - ⑥ ブログ利用者の約4割が個人情報の提供をしている。
⇒ネットに一度流出した情報は回収できないことを知るべき
 - ⑦ フィルタリング利用者は32% 女子高生は16%
 - ⑧ 情報モラル教育のゴールは、「フィルタリング」や「機能制限」に頼らなくても、
ネットのトラブルに対処できる知識を身に付けること。 リテラシー＝知識
 - ⑨ リテラシーが不十分なうちは、被害に遭いやすい。その危険を回避するのが、「
フィルタリング」や「機能制限」である。
 - ⑩ 「なぜこのサイトやアプリを使ったらいけないのか」を考えることで、リテラシー
が身に付いてくる。
⇒ フィルタリングを使わないと、なぜ見てはいけないのかをすることがない。
⇒ リテラシーが身に付かない
 - ⑪ また、ブロックされることで考えて、保護者に利用したいと相談してくるので、親
と話すきっかけになる。
→ ファミリーレストランに楽しい会話とご飯を食べに来ているのに、家族がそれ
ぞれのスマホを使って会話がない。
→ 子どもに相談されても保護者が知らないから子どもたちも会話をしない。
スマホについての会話は無く、使い方は子ども任せに
 - ⑫ **フィルタリングは子どもとの会話のきっかけ作り**
→ブロックされれば子ども自ら相談してくる。
 - ⑬ 保護者がすべき2つのこと
・ フィルタリングを入れる
・ 「禁止→許可」をコミュニケーションにする。
 - ⑭ 例：保護者が子どもと約束(食事中には使わない等)してスマホを購入して、しば
らくは約束を守るが、だんだんと食事中にLINEをして母親から取り上げら
れる。友達からの返事をしないといけないと子どもは不安になる。翌日学校に
行くと無視され仲間から外される。
- ↓
- この母親のとした行動は？
- 実は、これが「ネグレクト現象化」である。母親がとした行動が子どもを不安に
させ、いじめに遭わせている。①で紹介した女子高生も…。
- ⑮ 友達にもしっかりと家のルールがあることを知らせておくことも重要である。
(例：21時以降は使用できない。メールできない等)